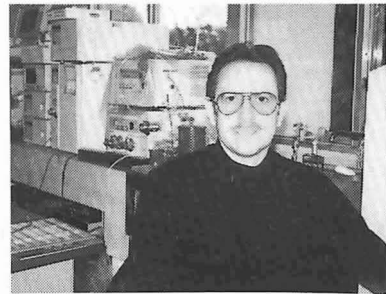


ニュース・玉川大学ミツバチ科学研究所から

パラグアイから研修生

国際協力事業団の依頼で、パラグアイ国農牧省養蜂部養蜂技師、ミゲール・アンジェル・アコスタ・アレッチェア (Miguel Angel Acosta Arrechea) 氏が11月1日に養蜂研修のため来所。12月2日までハチミツ中の花粉分析を中心に研修が実施された。



パラグアイのアコスタ氏

ニホンミツバチに関する放映

1993年10月13日、テレビ朝日のニュース番組「ステーションEYE」で、吉田助教授、小野講師が出演した「ニホンミツバチ」と題したスズメバチに対する防衛行動が放映された。

ミツバチ科学研究所関係 図書・論文・資料リスト (1993) (本誌の掲載論文, 記事を除く)

- 越後多嘉志. ハチミツの科学. 調理科学 26(1): 47-53.
 (社) 国際農林業協力協会 (編). アジアの養蜂.
 (社) 国際農林業協力協会. 東京. pp. 117.
 小野正人. アジアのミツバチ. p. 1-10.
 小野正人・吉田忠晴. アジア養蜂の概況. p. 11-28.
 中村 純・竹内一男. アジア養蜂の問題点. p. 29-44.
 吉田忠晴. 日本の養蜂. p. 45-49.
 松香光夫・榎本ひとみ. アジア各国の養蜂. p. 50-113.
 酒井哲夫. アジア養蜂研究協会—まとめにかえて—. p. 114-117.
 Matsuka, M. and T. Sakai. Case studies on

編集後記

プロポリスに関する記事として、池野ほかのラットの歯牙う蝕に対するプロポリスの効果についての論文を掲載することができた。この記事をきっかけに、1月9日の第16回研究会で本論文の一部を含めた池野武行教授による講演が実現できたことに感謝したい。日本プロポリス協議会が進めてきたプロポリスの安全性試験に関する結果を、金枝・仁科氏

研究所の動向

新島恵子助教授は、1993年8月20日より1年間、アブラムシ捕食性昆虫の利用研究のためカリフォルニア大学バークレイ校とコーネル大学に留学。

beekeepers' lives in Japan. Proc. 1st Asia-Pacific Conf. Entomol. p. 796-798. (1991)
 Nakamura, J. Intermediate beekeeping in Nepal. Proc. 1st Asia-Pacific Conf. Entomol. p. 803-808. (1991)

- 新島恵子. 我が国におけるクサカゲロウの大量飼育の可能性と問題点. 植物防疫 47 (10): 21-25.
 Ono, M. Bienenarten Asiens. Schweizerische Bienen-Zeitung 115 (11): 646-650.
 酒井哲夫. ミツバチ—多彩な利用の可能性. 畜産の研究 47(1): 213-218.
 酒井哲夫・中村 純. ミツバチの社会システム—自己組織化—. 化学工業 57(8): 595-597.
 佐々木正己. ミツバチの社会システムとその制御機構. 社会性昆虫の進化生態学 (松本忠夫・東 正剛共編). 海游舎. 東京 p. 206-245.
 吉田忠晴. 最強の「ハニカム」構造—ミツバチはなぜ六角形を選ぶのか?. 最新科学論シリーズ 24 最新形の科学. 学習研究社. p. 142-145.

から紹介いただいた。これまで伊那谷自然友の会の会報、「伊那谷の自然」に発表されてきた岩崎・井原氏の「伊那谷のニホンミツバチ」を、未発表記録を含めて掲載できた。特に分蜂群の飛行ルートと巣箱の位置の関係は、セイヨウミツバチについても殆ど報告はなく、興味深い貴重な記録である。北京での第33回養蜂会議に関連した記事を掲載したが、寄稿いただいた4名の方々にお礼申し上げる。(忠)